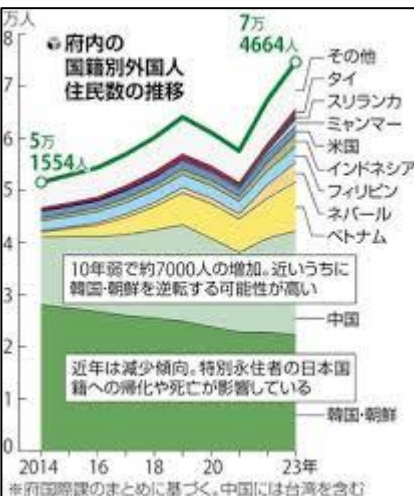
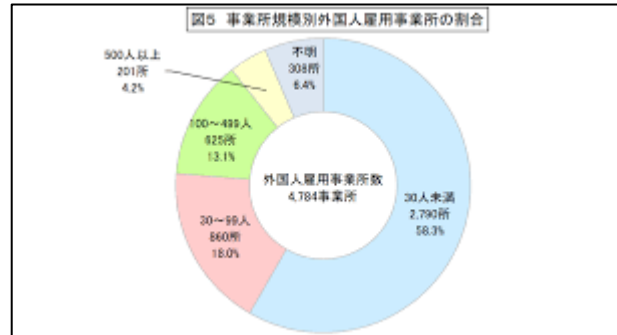


京都府内外国人在住者が急増！

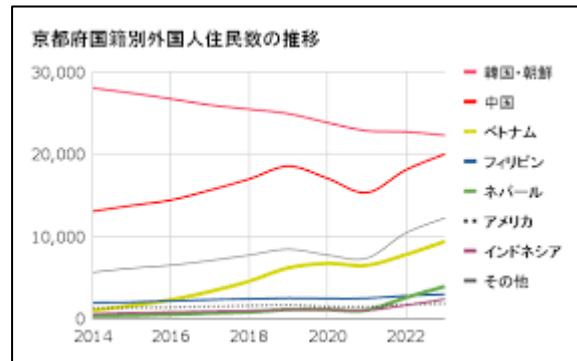
京都府内に在住の外国人が10年前に比較して、1.4倍に急増している。総数で7.5万人になった。技能実習生や留学生の人数が増加している。アジア地域、特にベトナムやネパールからの来日が目立つ。2027年度には現在の技能実習生制度に変わる新しい育成就労制度が始まる。京都府は、それに合わせて外国人労働者のさらなる増加を見込み、日本語の学習支援制度を進める。



＜解説＞京都府内の外国人在住者は、2014年には51,554人だった。2018年には6万人を超え、2020年、2021年には新型コロナウイルスの影響で減少したが、再び2022年には増加に転じ、2023年には74,664人になった。京都府内の外国人の国籍では、韓国・朝鮮が約30%、で長年最多を占めている。ただ、最近では高齢化で亡くなったり日本国籍を取得したりする人が増え、中国人の割合が増加している。3番目に多いのはベトナムで、10年前の10倍の9,350人に増加した。約1,000人が暮らす京都府八幡市では、ベトナム料理店や食材店が進出している。4番目はネパールで3,867人。10年前の約13倍に増加した。市町村別では、京都市が55,434人と全体の7割を占め、次いで宇治市、八幡市と続く。伸び率では熊本県菊池市に次いで、八幡市が全国で2番目、木津川市が4番目となる。人口に占める外国人比率の割合が

最も高いのは、久御山町で6.7%となっている。外国人就労者の増加に伴い、日本語教育の推進が自治体の責務となっており、京都府内にある31

か所の日本語学校の拡充を図る。日本語教室は、この5年間で5教室増えたが、学習支援のスタッフが不足し、受け入れを断るケースも出ている。現在教室が1か所もない向日市や与謝野町などの空白地帯解消に向けて、支援を行う。オンラインを活用し、遠方からでも教室に参加できるように体制づ



順位	都道府県	順位	都道府県
1	東京都	7	北海道
2	大阪府	8	千葉県
3	神奈川県	9	愛知県
4	京都府	10	兵庫県
4	沖縄県	10	長野県
6	福岡県	10	埼玉県

くりを目指す。企業との連携も推進する計画だが、技能実習生を受け入れている企業に、さらに単独で学習支援を行うのは負担が大きいとの指摘もある。数年で帰国する人のために、学習意欲の少ない人材にどこまで投資をするのかは、不透明だ。今後人口減少が確実な日本で、外国人労働者の増加と定着は急務だ。そのための環境づくりが整備されないと、優秀な外国人労働者が、近隣の韓国や中国に行ってしまう懸念がある。移民政策を進める前に、まずこの外国人労働者対策を進めることが大事だ。